

# 愛する町田・鶴川のために！

長谷川 圭亮

## はせがわ 圭亮

NEWS  
Vol.4  
2025年10月発行

お手にとっていただきありがとうございます。

### 「石阪丈一町田市長が引退表明」

2006年より5期20年町田市長を務めている石阪丈一氏が次の市長選(2026年2月8日告示・2月15日投開票)に立候補せず、今限りで引退のご意向を表明されました。小中学校の統廃合計画や(仮称)国際工芸美術館の建設計画等、はせがわと考えを異にする部分もありましたが、20年という長きにわたり市長を務められたことに敬意を表します。

さて、町田市は1958年の市制施行から今日に至るまで、市長が4人(青山元市長・大下元市長・寺田前市長・石阪市長)しかおりません。1人当たりの在任期間が他市と比べ長いことが特徴です。今回の記事ではその中でも「福祉の町田」を全国に広めた第2代町田市長・大下勝正氏の取組を紹介し、大下元市長が取り組まれた福祉政策と今の町田の福祉政策の問題点を整理しました。ぜひ裏面もお読みください。

### ミニ集会「町田・鶴川まちトーク」を行います！

町田や鶴川のこと、町田市に対するご意見ご要望に関して少人数の車座形式で話し合う会「町田・鶴川まちトーク」を行います。ぜひご参加いただければ幸いです。

- ①【鶴川】11/1(土)14:00-15:00  
@ポプリホール鶴川プレイルーム
- ②【鶴川】11/3(月・祝)14:00-15:00  
@鶴川市民センター第1会議室
- ③【町田】11/15(土)10:00-11:00  
@町田市民文学館ことばらんど第1会議室
- ④【鶴川】11/18(火)19:00-20:00  
@ポプリホール鶴川会議室
- ⑤【鶴川】11/26(水)14:00-15:00  
@三輪コミュニティセンター第5会議室
- ⑥【鶴川】12/6(土)10:00-11:00  
@ポプリホール鶴川会議室
- ⑦【町田】12/8(月)19:00-20:00  
@町田市民ホール第1会議室
- ⑧【鶴川】12/13(土)10:00-11:00  
@真光寺3丁目町内会館
- ⑨【鶴川】12/18(木)19:00-20:00  
@ポプリホール鶴川会議室
- ⑩【鶴川】12/27(土)14:00-15:00  
@鶴川団地付近

お申し込みはこちら  
事前予約制



(詳細場所は参加申込者様に個別でお知らせいたします)



### はせがわ圭亮（長谷川圭亮）プロフィール

1997(平成9)年2月28日生まれ

真光寺3丁目在住

けいしょう幼稚園・鶴川第四小学校 出身

日本大学文理学部社会学科 卒業

日本大学大学院文学研究科

社会学専攻社会学コース 中途退学

衆議院議員秘書・参議院議員公設秘書・

私立学校職員を経て町田市内で活動中！

社会調査士・防災士 上級救命技能認定

骨髄バンクドナー登録

真光寺3丁目町内会 2025年度副会長

中学軟式野球チーム

「多摩スーパースターズ」球団代表

一般社団法人町田青年会議所

町田市倫理法人会

町田交通安全協会鶴川第1支部

町田市消防団第三分団第六部

町田市赤十字奉仕団 NPO法人町田演劇鑑賞会

日本大学町田桜門会 他地域諸団体に所属

趣味：街歩き・

サッカー観戦(FC町田ゼルビアファン)・映画鑑賞・

乗り物乗車(電車、バス、飛行機)

発行：はせがわ圭亮（けいすけ）

TEL:090-4931-0839

Email:keisuke0228hasegawa@yahoo.co.jp



←←←

はせがわ圭亮

公式HP



←各種SNSアカウント！友だち追加・フォロー・いいねお待ちしています。

# 大下勝正元市長が創った「福祉の町田」と今日の課題

1970年から1990年の20年間にわたり町田市長を務めた大下勝正氏。「同じ人間として、ともに生きている人の、人権を保障するのが福祉である」との考え方のもと福祉を優先させ、「福祉のまちだ」を創り上げました。今回の記事では大下元市長がどのような取り組みをされ、今日の町田の福祉がどのような問題を抱えているかを紹介します。

「町田市が変わった 地方自治と福祉」大下勝正著 朝日新聞社 を元に作成

大下元市長の福祉に関する取り組み	
「車いすで歩けるまちに」。日本にはじめて車いす専用の自動車「やまゆり号」を誕生させる。陸運局の許可に難航するもナンバーをおろしてもらう。	車いす用トイレ(現在でいう多目的トイレ)の設置を進め、「町田市の建築物等に関する福祉環境整備要綱」「ハンディキャップを持つ人のための施設整備基準」を制定。
福祉事業所を発足させ、手をつなぐ親の会と協議し、専従の指導職員を公費で採用。	「干支」の置物づくりを行う障がい者のための就労場所「美術工芸館」をオープン。
障がいのある方が「七国しいたけ」を栽培する、こころみ農園がオープン。町田駅前の名産品店等で販売される。	薬師池公園のハスに着目し、ぐうし(ハスの根や茎から採れる非常に細く貴重な繊維を紡いで作った糸のこと)で織物を作り、町田の名産品に。のちに大賀ぐうし館がオープン。
重度肢体不自由児が働く場としての温室栽培「花の家」がオープン。	障がいのある方が四季折々の花を栽培する「ダリア園」が薬師池公園にオープン
動物好きの子どもが多いことをきっかけに、大島の「リス村」を参考にし、福祉政策の一環として「まちだリス園」を開園。	薬師池公園内に「えびね苑」「ぼたん園」「萬葉草花苑」がオープン。
国際版画美術館の開館に伴い、「喫茶けやき」がオープン。障がいのある方の雇用の場になる。	小田急町田駅前のタクシー乗り場に「名産品の店・まちだ」がオープン。身体障がい・聴覚障がいを持つ方の雇用の場となる。(現在はまちだ名産品の店 心和に名称変更)
65歳以上の高齢者が入院7日より入院日数に応じて1～8万円支給される「高齢者入院見舞金制度」がスタート(2008年から始まった国の後期高齢者医療制度等に置き換わり現在は廃止)。	町田市が任意団体「町田市在宅福祉サービス公社」を設立。有償ボランティアによる会員制家事援助サービスから始まり、認知症対応型通所介護「おりづる苑」が開設。(現在は「社会福祉法人町田市福祉サービス協会」に委託)
「車いすで歩けるまちづくり」をスローガンに掲げた元市長は、横浜線町田駅に全額町田市負担でのエレベーターを設置。当時の国鉄では、ホームに接続する乗客用のエレベーターは全国どこにもなかった(荷物運搬用のものは在来線や新幹線に設置)。しかし、設置を粘り強く要求し、エレベーターの設置を実現。	

## 今日の町田の福祉行政の問題点

- ①大下元市長のその後の寺田前市長のもと、町田市では1994年～2005年に公設デイサービス12施設を整備しましたが、2028年度末に公設デイサービスが終了予定であり、それに伴い民営化を進めている状況です。しかしながら、土地の所有者が東京都、運営が指定管理となっており、民営化が困難な状況にあります。介護タクシーなどの収益が出にくい事業なども行っているようです。私としては、利用者サービスは維持することを前提に、話し合いを重ねていくことは大変重要であり、その上で必ずしも民営化にこだわる必要はないと考えています。
- ②町田リス園については、町田リス園基本計画は2025年度中を目標に現在策定中です。来園者数を大幅に増やす計画で、大きな変化は生じるものの、「障がいのある方が働く場として作られた開園時の理念」が引き継がれるかは不透明です。過去2回実施した保護者向け説明会では、リニューアル後の運営に不安が広がっています。市と町田リス園関係者の間にはすでに溝が生まれているようです。私としては「観光施設として」のリス園も大切ですが、まず「福祉就労所として」の場を守り、開園当初の理念を維持していく必要があると考えます。そのうえで施設管理者、就労者(就労者家族)、市が対等な立場に立って、話し合いを丁寧に進めていく必要があると考えます。